

## 1 4. SR 尿路性器系の疾患 (N80 子宮内膜症)

### 文献

Mira TAA, et al.: Systematic review and meta-analysis of complementary treatments for women with symptomatic endometriosis. *Int J Gynaecol Obstet* 2018 Oct; 143(1):2-9. PMID:29944729

### 1. 背景

出産年齢の女性に影響がある子宮内膜症の治療法は進歩してきているが、慢性の炎症による持続的な症状がある。主な疼痛の症状は月経困難症、慢性骨盤痛、重い性交痛、排便障害、排尿障害。これら症状に対する治療の選択肢は、研究が余りされていないか科学的根拠の裏付けがないために少ない。

### 2. 目的

子宮内膜症による疼痛の症状を緩和するためのリソース、方法、補完的な治療法の特定と、治療の有害作用の特定をする。

### 3. 検索法

Lilacs, Scielo, PEDro, Scopus, Pubmed, CENTRAL Cochrane, Science Direct, Google Scholar を用いて 2017 年 7 月 31 日までにポルトガル語、英語、スペイン語で発表された文献を、“physical therapy” OR “complementary treatment” AND “endometriosis” といった用語を使い検索した。

### 4. 文献選択基準

子宮内膜症の疼痛症状、または標準治療の有害作用を緩和するための補完的治療の使用を評価したランダム化比較試験 (RCT) が対象。治療とプラシーボや、コントロール群との比較研究も検討された。レビューのため、研究の対象者は子宮内膜症と診断され骨盤周辺に痛みがある (生理痛、性交痛又は骨盤痛) 女性とした。アウトカムにはホルモン療法の有害作用または子宮内膜症による疼痛症状が含まれた。

### 5. データ収集・解析

初期検索で共同執筆者のうち 3 人がそれぞれデータを収集した。ここから 1 人が抽出、もう一人がチェックした。バイアスリスク評価にはコクラン共同計画ツールが使われた。

### 6. 主な結果

検索から抽出した 231 論文のうち 8 件の RCT(参加者計 385 人)を選出。うち 2 つをメタ解析。バイアスリスクの有無を評価する情報がいずれも不十分であった。補完的介入法は、鍼療法、運動、電気療法、ヨガ。年齢は 13 歳から 50 歳 (2 論文では参加者の平均年齢のみ報告)。どの研究も効果を確認するには決定的ではなかった。しかしながら、それぞれ子宮内膜症の症状の治療にポジティブな傾向を示していた (ヨガは週 2 回 8 週間のハタヨガのプログラム。疼痛緩和と QOL の向上を示唆)。鍼療法のメタ解析 (2 つの RCT、参加者計 56 人) では、プラシーボとの比較で有意に疼痛軽減の効果があつた (MD=-1.93, 95%CI[-3.33,-0.53]  $p=0.007$ )。

### 7. レビュアーの結論

様々な補完的療法が子宮内膜症の症状緩和に用いられていたが、鍼療法だけが有意に効果を示した。しかし他のアプローチもポジティブな傾向があつた。今回の結果は、研究者がこれら手法の活用を支持すべくさらなる比較対象研究を計画することを促すだろう。また医療者は疼痛軽減と QOL 向上のための補完療法の重要性に気づくであろう。

### 8. 要約者のコメント

今回の研究でヨガは 8RCT のうちの 1 件だった。子宮内膜症治療の補完療法としてヨガの効果を検証できる論文の蓄積が待たれる。

石村 千明 岡孝和 2022 年 12 月 28 日